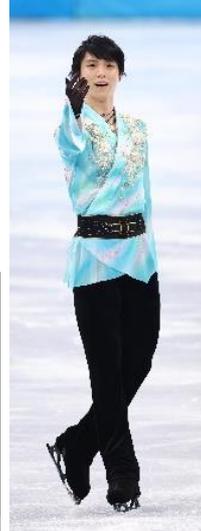




北海道・札幌

冬季オリンピック・
パラリンピック
の招致を目指しています



第3回北海道・札幌2030オリンピック・パラリンピック プロモーション委員会



札幌市／公益財団法人日本オリンピック委員会

－ 次第2 開催意義について【テーマ:レガシー】－

第2回会議の振り返り

協議テーマ「共生社会」に対する委員の意見を分類・整理したもの（素案）

1 北海道・札幌における共生社会のまちづくり・地域づくり

- 1 - 1 雪と共存し、雪がある生活に誇りが持てる街・地域へ
- 1 - 2 大会開催とまちづくり計画との連動
- 1 - 3 利用者目線でのバリアフリーの推進
- 1 - 4 パラリンピックと心のバリアフリーの推進
- 1 - 5 誰もが日常的にスポーツを楽しめる環境
- 1 - 6 ジェンダー平等におけるインパクトのある取組

2 大会開催を通じた共生社会実現への貢献

- 2 - 1 あるべき共生社会の姿の具体的設定（イメージの見える化）
- 2 - 2 共生社会実現のプロセスに巻き込む工夫
- 2 - 3 情報公開・対話におけるアクセシビリティの確保

3 パラリンピック教育の推進

- 3 - 1 子どもたちや若い世代に対する価値や意義の発信
- 3 - 2 教育現場の対応（「I'mPossible（アームポッシブル）」の活用等）

協議テーマ「共生社会」に対する委員の意見を分類・整理したもの（素案）

4 パラリンピック・パラアスリートの役割と東京2020大会のレガシー

- ・ 4 - 1 パラリンピック・パラアスリートのパフォーマンスを通じた共感
- ・ 4 - 2 大会の計画段階からパラアスリートの声を反映
- ・ 4 - 3 パラ競技団体の運営基盤の強化
- ・ 4 - 4 東京2020大会から北海道・札幌2030大会へ

5 ジェンダー平等の更なる推進

- ・ 5 - 1 ジェンダー平等の強い打ち出し
- ・ 5 - 2 スポーツ界におけるジェンダー平等推進
- ・ 5 - 3 ジェンダー教育
- ・ 5 - 4 ジェンダー平等におけるインパクトのある取組（再掲）

【第4回会議（9月上旬予定）】
中間とりまとめ（案）に反映

－ 次第2 開催意義について【テーマ:レガシー】－

札幌市における国際大会のレガシーについて

札幌市における国際大会のレガシーについて

1972年札幌オリンピックから受け継がれるレガシー

スポーツにより発展した都市＝札幌

- ・ 1972年 アジア初となる冬季オリンピック
- ・ 国際都市「SAPPORO」を目指し、まちを「つくる」オリンピック
- ・ 地下鉄や高速道路などインフラ整備、1972年政令指定都市に。

オリンピックがもたらしたスポーツ文化

- ・ オリンピック施設（アイスホッケー、スケート、スキージャンプ等）
- ・ 50年経過した今も多くの市民が利用。ウィンタースポーツは、市民の生活の一部に。

国際観光都市としての地位を確立

- ・ さっぽろ雪まつりは、約300万人が訪れる国際的なイベントに成長
- ・ 国内外から多くの観光客が訪れる国際観光都市へ



2017冬季アジア札幌大会

➤ 1972年札幌オリンピックを超える大規模国際大会

- ・ 過去最大規模の32の国・地域から、2,000人を超える選手役員が参加
- ・ 5競技11種別64種目を札幌市・帯広市の12会場で実施（観客数：約83,000人）

ボランティア

- ・ 約4,300人の「スマイル・サポーターズ」が会場案内や通訳など多くの業務に従事
- ・ 大会のレガシーとして、スポーツボランティアコミュニティ「スマイル・サポーターズ」を継承
- ・ ラグビーW杯2019や東京2020大会などの大規模大会を始め、各種スポーツ大会等で活動。登録者：1,200人（2022.7.1現在）



子どもたちの国際交流

- ・ 小学生の応援メッセージ入り手旗10,000本を来場者に配布
- ・ 各NOCへの千羽鶴贈呈、授業の一環として競技観戦、競技開始前の合唱・吹奏楽演奏 など



札幌市における国際大会のレガシーについて

2017 IPCノルディックスキーW杯札幌大会（現：ワールドパラノルディックスキー）

➤ 札幌で初となる障がい者の国際スキー大会

- ・世界15の国から約130人の選手・役員が参加
- ・クロスカントリースキー・バイアスロンの2種目、立位、座位、視覚障がいのカテゴリーで実施（観客数：約2,400人）

ボランティア

- ・アジア大会終了後、引き続きスマイル・サポーターズが活動
- ・表彰式は学生ボランティアによる企画運営

子どもたちの国際交流

- ・代表選手等が学校を訪問し、生徒と触れ合いながら、パラスポーツの魅力伝えた。
- ・大会期間中は、市内の小中学生1,000名以上が応援のため現地観戦

パラスポーツの普及

- ・市内小学校においてパラスポーツの授業を実施
- ・障がいのある児童向けにスキー学習でのシットスキー支援を実施



札幌市における国際大会のレガシーについて



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（サッカー・マラソン・競歩）

マラソンツーリズムの推進

- ・オリンピックマラソンコースのレガシー化（銘板・オリンピックシンボルの設置）
- ・ランナーズステーション「RUN BASE SAPPORO」の開設
- ・オリンピックメモリアルコースの設定と市民・観光客向けランニングマップの作成



札幌ドームのバリアフリー化

- ・車いす観戦席を従来比約70%増の199席に増設
- ・エレベーターの改修（かごサイズ幅の拡大）

アクセシビリティの向上・改善に寄与



札幌市における国際大会のレガシーについて

共生社会ホストタウン事業

子どもたち・若者の国際交流

相手国	ウクライナ（男子ゴールボールチーム）	カナダ（女子ゴールボールチーム）
交流対象	札幌開成中等教育学校 北海道札幌視覚支援学校	北海道武蔵女子短期大学
事前交流	オンラインを介した交流・相手国の文化を知る学習	
当日交流	歓迎メッセージ入りうちわ贈呈 ビデオメッセージ贈呈	歓迎メッセージカード贈呈
事後交流	・大会結果の報告会をオンラインにて実施 ・学生から大会時の心情や札幌滞在時の思い出等を質問、和やかな雰囲気での交流	



北海道・札幌2030大会概要（案）で掲げる「レガシー」（一例）

スポーツ・健康

【スポーツによる健康で活力ある社会】

- ・ ジュニアアスリートの発掘・育成
- ・ 市民やボランティアとともにつくる大会 など

経済・まちづくり

【世界に躍進する魅力あふれるまちづくり】

- ・ 大都市スノーリゾートとしてのブランド確立
- ・ ICT等を活用した新たな交通体系の実現 など

社会

【全ての人にやさしい共生社会の実現】

- ・ 心のバリアフリーが実現した誰もが暮らしやすいまち
- ・ 食や芸術など札幌ならではの文化を世界に発信 など

環境

【次世代が豊かな自然を享受できるまち】

- ・ 再生可能エネルギーの利活用
- ・ 森林等の自然環境保全 など

－ 次第3 機運醸成の取組について －

機運醸成の取組について

機運醸成の考え方

本年3月の意向調査結果を踏まえた現状認識と課題感

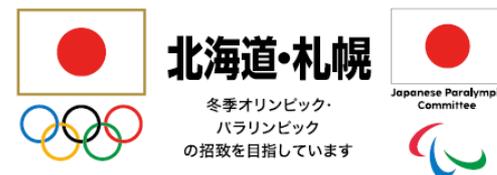
約6割に上る
中間層の取込み

大会招致を知らない
1～2割の層への対応

比較的支持の低い中高年を
中心とした層の理解促進

ターゲットと取組の進め方

- ・ 賛成、反対のどちらでもない中間層をターゲットの中心
- ・ ポジティブな空気感醸成、関係団体との連携・発信により市民運動へ



関係団体との連携推進、イベント活用等による ポジティブな空気感の演出

- ・ 関係団体と連携した招致応援プログラムの積極的な展開
- ・ スポーツ大会活用、公共空間・施設での都市装飾、メディアへの積極発信



不安や懸念の払拭・住民理解促進の取組

- ・ 比較的支持の低い中高年層を中心にアプローチ
- ・ 札幌商工会議所との連携により企業向け出前講座を拡大



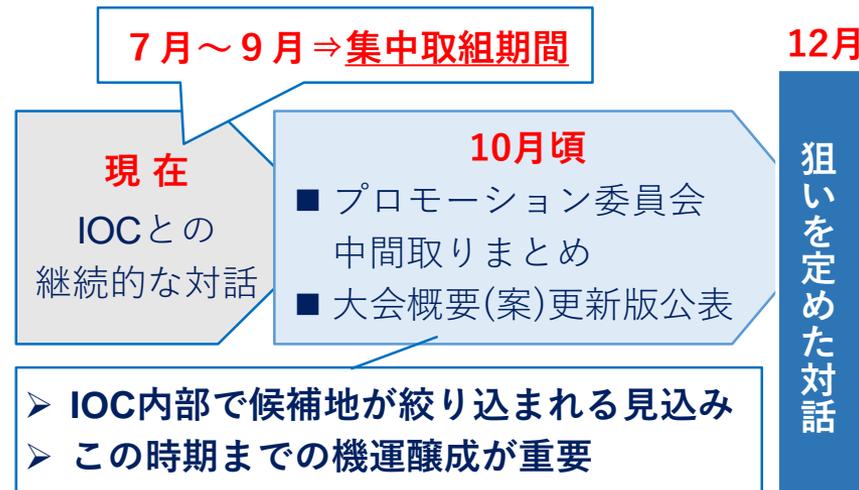
札幌・北海道における機運醸成活動

■ 冬季オリンピック・パラリンピック札幌招致期成会

- ・札幌商工会議所を中心として2015年設立
- ・経済・観光団体、メディア、競技団体、その他一般企業等合計313団体で構成

■ 各団体との連携（集中取組期間：7月～9月）

- ・広報物（チラシ、ポスター、会報誌等）への招致応援プログラムの積極的な活用
- ・イベントにおける招致応援プログラム活用
およびブース出展の機会提供
- ・招致応援メッセージの表明と発信



■ 冬季オリンピック・パラリンピック札幌招致期成会 定時総会

（7月27日（水）／京王プラザホテル）

機運醸成の
「総決起集会」

- ・各種団体からの活動報告・招致応援宣言
- ・アスリートクロストーク ほか

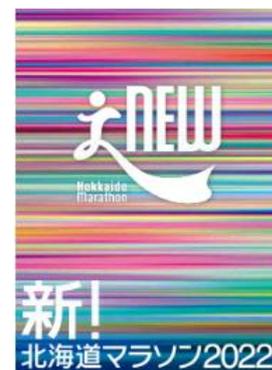
機運醸成の取組について



札幌・北海道における機運醸成活動

■ 今後の主要イベントとの連携予定

7/31	札幌市政100周年記念式典
7/30-31	環境広場さっぽろ2022
8/6-7	2022 サマージャンプ大会
8/6-7	大ほっかいどう祭
8/28	北海道マラソン
9/9-10	さっぽろオータムフェスト2022



大規模な集客イベントの機会を積極的に活用し、
市民・関係者が一丸となり、まち全体で大会を歓迎

機運醸成の取組について

札幌・北海道における機運醸成活動

■ イベント等の機会を活用した取組①

・北海道スポーツのみらいを集い（7月17日（日）／札幌プリンスホテル）

招待選手



ソフトボール
山本 優 選手



駅いすラグビー
池崎 大輔 選手



スキージャンプ
小林 健悟 選手



スピードスケート
森重 航 選手



スピードスケート
佐藤 綾乃 選手



スピードスケート
高木 菜那 選手

スペシャル ゲスト



原田 雅彦 氏

北海道上川郡上川町出身。1998年長野オリンピックスキージャンプ団体金メダリスト。雪印メグミルクスキー部統括監督。2022年北京オリンピックの日本選手団の統括監督を務める。



郷 亜里紗 氏

北海道川部町出身。イヨテツスピードクラブ所属。平昌オリンピックに出場して、女子500mで8位入賞を果たした。2018年平復を引退後翌年復帰。2022年北京オリンピックに出場し、日本選手団旗手を務める。

ナビゲーター



鈴木 靖 氏

心かわ町出身。1984年サウエポオリンピック日本代表として男子500mに出場。全日本実業団スピードスケート大会で3連覇。



永瀬 充 氏

旭川市出身。パラリンピックノルバアイスホッケー日本代表G K→5年ぶりに現役復帰。日本パラリンピアンズ協会理事／北海道新聞社パラスポーツアドバイザー



川端 絵美 氏

札幌市出身。アルペンスキー一級ライセンス。1988年カルガリー、1992年アルペルビル、1994年リレハンメル3回の冬季オリンピックに出場し、滑降の最優秀選手1位。全日本選手権全種目制覇4回を2回達成。

コメンテーター



機運醸成の取組について

札幌・北海道における機運醸成活動

■ イベント等の機会を活用した取組②

- ・イオンdeパラスポ（5月29日（日）／イオンモール発寒）



- ・オリンピックデーイベント（6月25日（土）大倉山オリンピックミュージアム）



札幌・北海道における機運醸成活動

■ 都市装飾

- ・地下歩行空間柱巻き（7月15日（金）より新キービジュアルにリニューアル）



- ・市役所本庁舎・道庁赤れんが庁舎改修工事仮囲い・交通広告等（8月上旬より順次更新・展開予定）



全国における機運醸成活動

■ JOCオリンピックコンサート (6/16)



※アスリートの招致応援
素材撮影

■ TEAM JAPANシンボルアスリート・ ネクストシンボルアスリート認定式 (6/23)



※アスリートの招致応援素材撮影

■ 東京2020大会1周年記念セレモニー (7/23)



【今後の主要イベント】

- | | |
|-------|------------------------|
| 8/24 | 東京2020パラリンピック1周年記念イベント |
| 9/8 | サッポロスマイルデー (さっぽろ感謝の集い) |
| 10/16 | 東京レガシーハーフマラソン2022 |

■ 招致WEBサイト (SNSとの連動)



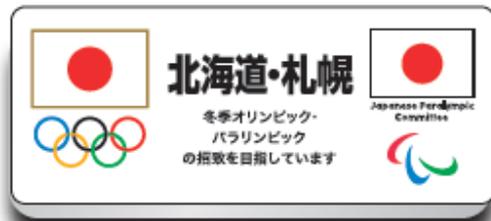
【Twitter 公式アカウント】
[@hokkaido2030](https://twitter.com/hokkaido2030)

機運醸成の取組について



招致応援プログラム向け広報PRツール

ピンバッジ



ポスター・チラシ



ステッカー (2種)



三角ポップ (2種)



うちわ (2種)



※組立前

イベントブースセット



北海道・札幌2030オリンピック・パラリンピック招致応援大使

■ 目的

- ・大会の開催意義や開催によりもたらされる利益（効果・恩恵）などについて、情報発信等を行い機運醸成に資する。

■ メンバー

- ・プロモーション委員会の冬季どさんこアスリート委員に大使を依頼
⇒永瀬委員、原田委員（五十音順）



■ 活動内容

- ・大使個人のSNS等を活用した応援メッセージの発信や各種イベントへの出演などを通じて、対外的な情報発信の強化を図り、一層の機運醸成を推進する。